

地域での活動者・団体に対する オンライン環境の整備に向けた アンケート

調査結果

文京区社会福祉協議会
地域福祉推進係
地域連携ステーション フミコム

●背景

平成28年より文京区社会福祉協議会によって地域連携ステーション フミコムが設置され、新たな担い手の創出や新たなつながりによる地域課題の解決、地域活性化に向けて各種事業を行ってきた。

新型コロナウイルスが猛威を振るう現在も、感染拡大防止に配慮しながら、中間支援機能を継続するために、講座・地域活動の相談等について、webシステムを活用したオンライン開催などを行っている。

●目的

この度のコロナ禍や大規模災害時など、長期に渡って顔を合わせてのコミュニケーションが難しい事態が生じたとき、市民活動を停滞させない、もしくは市民の力を合わせて迅速に問題解決に動き出せるようなまちを目指していきたい。

そのために、文京区内における活動者や組織・団体のオンライン環境の現状における整備状況等の調査に加え、各地域拠点のニーズや現状を調査するため、地域福祉コーディネーターとの共同事業として本アンケートを実施した。

●実施期間

2020年6月10日～6月30日

●調査対象

どっとフミコム登録団体

地域の居場所・サロン運営者

Bチャレ関連団体

企業地域連携推進ネットワーク会議参加企業

学識経験者 等

●調査方法

<依頼> 対象へ向けてメールで回答依頼：331件
Facebookアカウントでの回答依頼

<回答> Googleフォームでの回答
地域福祉コーディネーターによるヒアリング

●回答数

回答件数 : 136件

有効回答 : 134件

有効回答率 : 40.5%

●アンケート項目一覧（20項目）

回答している方について

- 回答者の年齢
- 回答者の組織・団体内での役割
- その組織・団体の主な活動エリア
- その組織・団体の文社協・フミコムとの関わり
- その組織・団体に活動する際に使用している機器

直接会うことが難しい事態における団体の活動状況について

- a. 組織・団体内でのコミュニケーションの頻度
- b. 組織・団体内でのインターネットを利用したオンライン会議の実施状況
 - ーb.で「実施した」と回答した方
 - b-1. オンライン会議を実施できた理由
 - b-1-1. オンライン会議で使用したサービス
 - b-1-2. オンライン会議を実施してみた感想や気づき
 - ーb.で「実施していない」と回答した方
 - b-2. オンライン会議を実施しなかった理由
 - b-2-1. オンライン会議について不安なこと・分からないこと
 - c. 外出自粛の制限が緩和した後、インターネットを利用したオンライン会議の扱い
 - d. 活動や外出の自粛によりコミュニケーションや会議以外での困ったこと

直接会うことが難しい事態における情報の収集・発信手段について

- a. 活動に必要な情報を収集するために利用したもの
- b. 活動に必要な情報を発信するために利用したもの
- c. 今回新しく利用を始めたもの
- d. 今回新しく利用を始めたものの感想や気づき

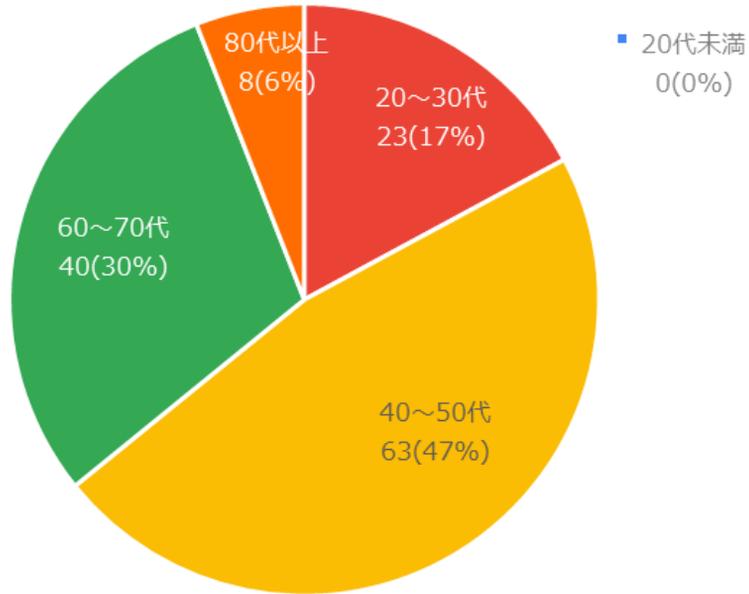
地域福祉推進係・フミコムへのご意見・ご要望など

●調査結果の見かた

- ・比率についてはすべて少数点以下第1位を四捨五入して計算しています
そのためグラフによっては合計が100%にならない場合もあります
- ・一部のグラフにおいて、クロス集計をするうえで「その他」の回答を省略しているものがあります
- ・自由回答の項目においては、回答内容をキーワードに分け、語尾などを調整のうえ分類しています

回答者の年齢

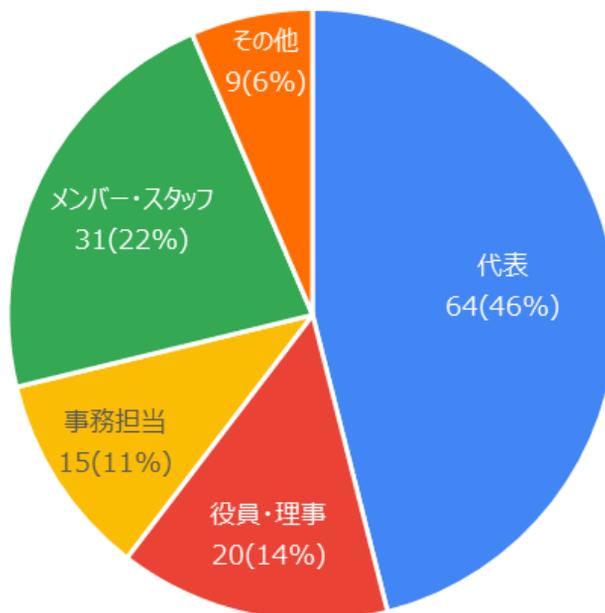
総回答数 : 134



回答者の組織・団体内での役割

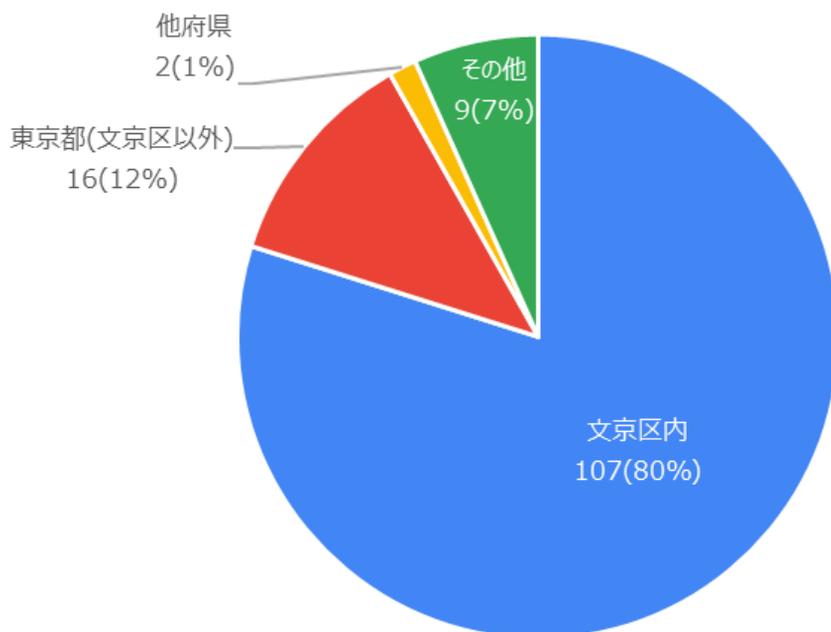
(複数回答)

総回答数 : 139



その組織・団体の主な活動エリア

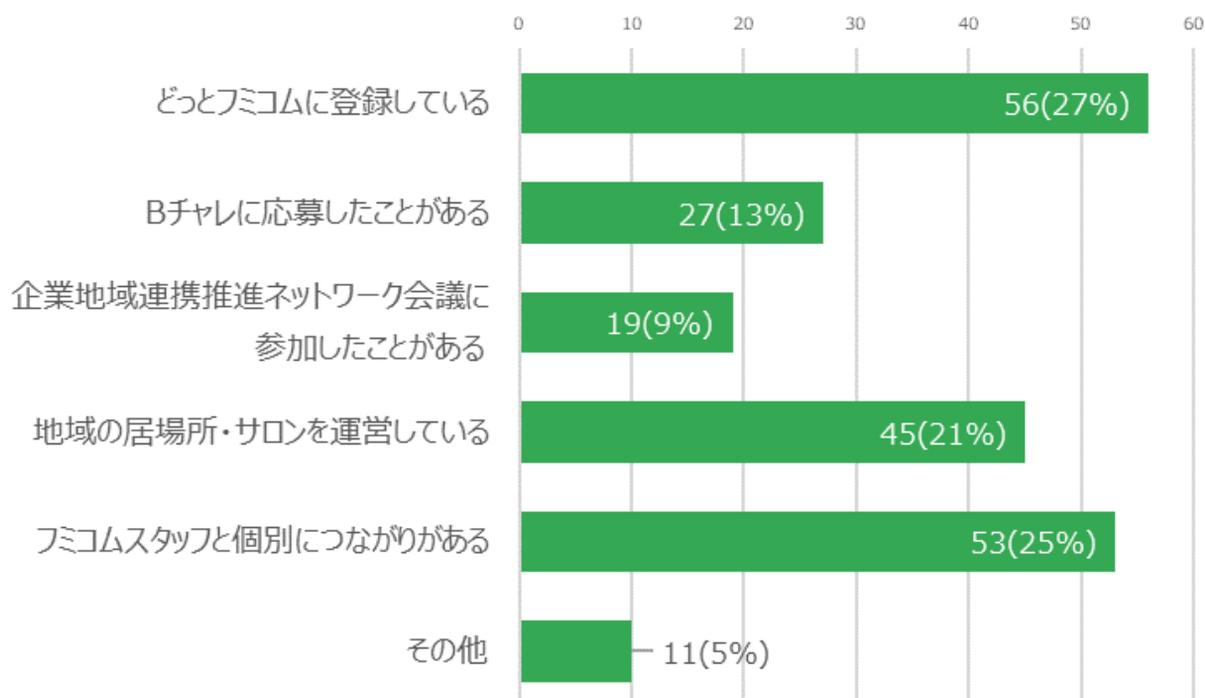
総回答数：134



その組織・団体の文社協・フミコムとの関わり

(複数回答)

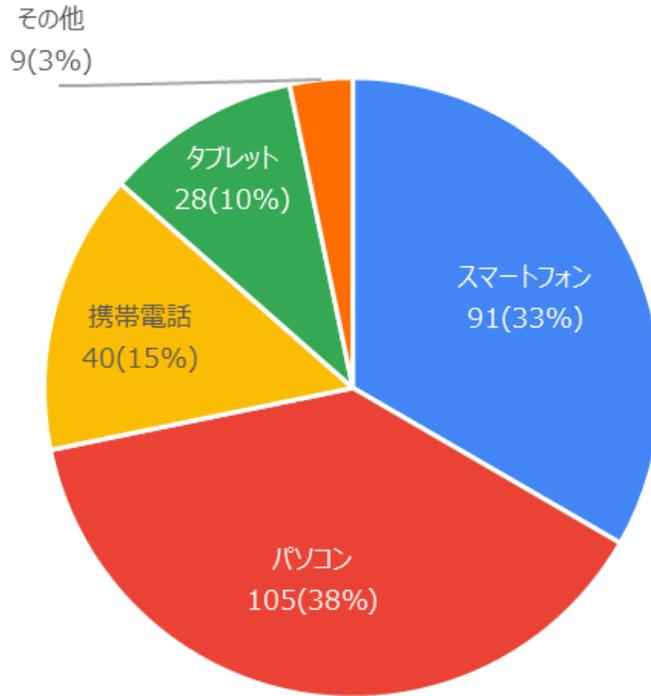
総回答数：210



その組織・団体の活動の際に使用している機器

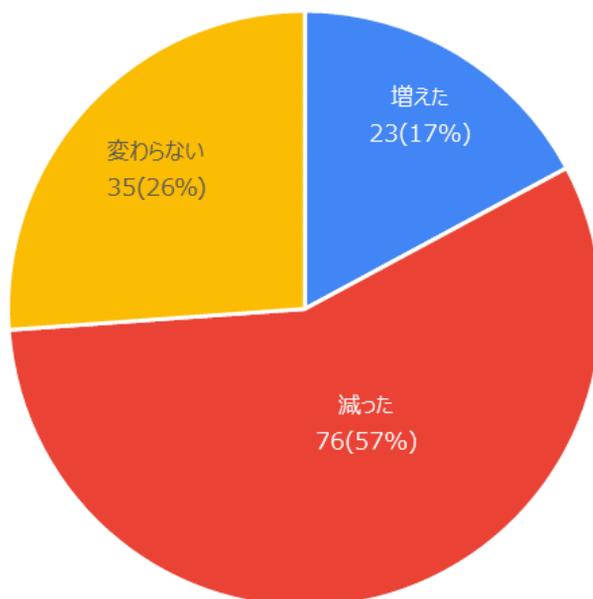
(複数回答)

総回答数 : 273



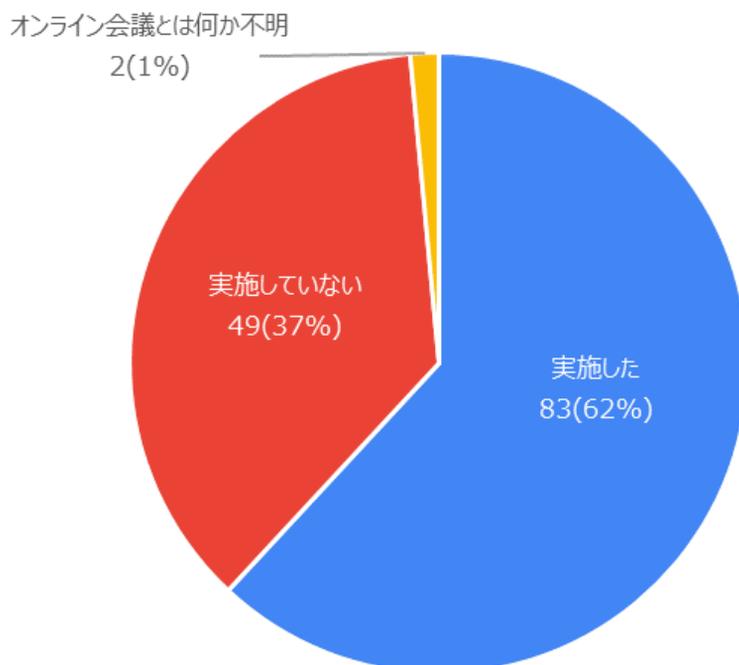
a. 組織・団体内でのコミュニケーションの頻度

総回答数：134



b. 組織・団体内でのインターネットを利用したオンライン会議の実施状況

総回答数：134

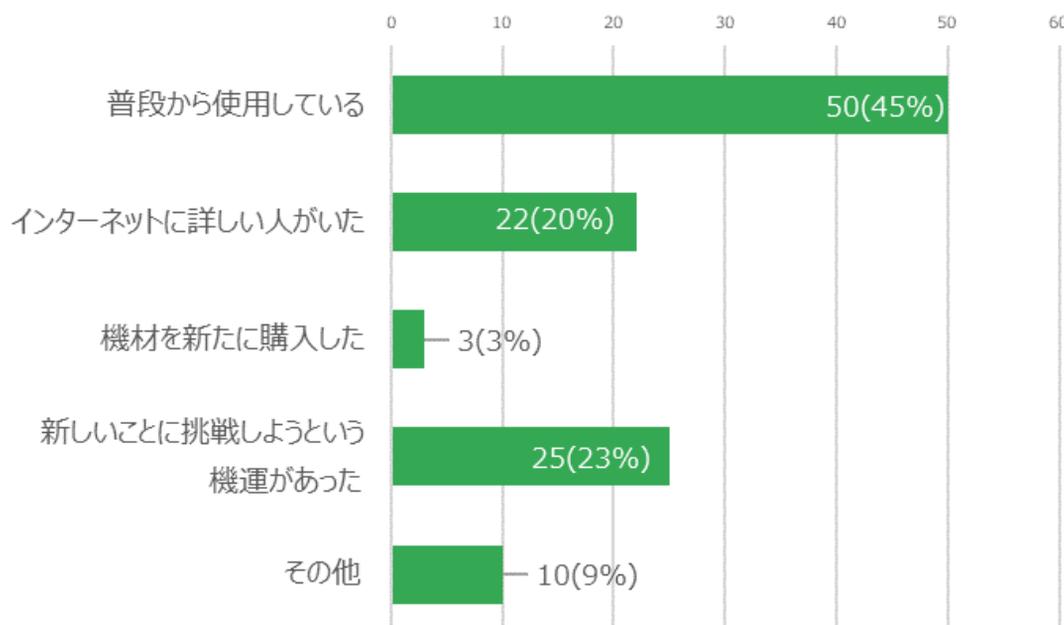


b-1. オンライン会議を実施できた理由

(複数回答)

※b.で「実施した」を回答した方

総回答数：110

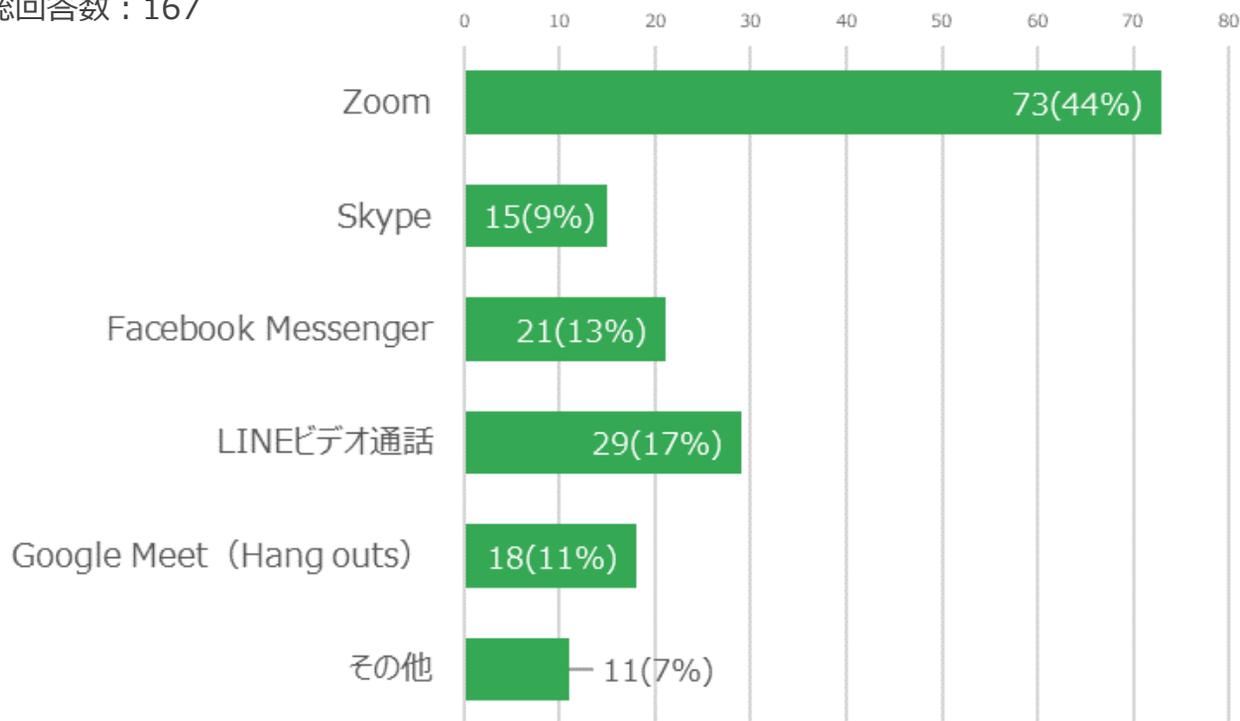


b-1-1. オンライン会議で使ったサービス

(複数回答)

※b.で「実施した」を回答した方

総回答数：167



※その他内訳：Cisco Webex (4) / Microsoft Teams (4) / 他 (3)

b-1-2. オンライン会議を実施してみた 感想や気付き – ポジティブな意見 –

- 自宅からの参加で移動の必要がないので、遠距離だったり家族の体調が悪くても参加できるメリットはある
- 普段から実施してるので特に不便はなかった
- 関係ができている学生同士は問題ない
- 移動がないので体は楽。
- 時短になって良い。
- オンラインは、物理的距離や時間を選ばないというメリットがある
- 参加者にとって都合の良い時間設定が可能など便利な面もあった
- 実際の会議だとなんとなく共有できていることや、なんとなく了解を得られていることも突っ込んで話す必要があり、それがよりハッキリした結論につながる良い面がある
- 効率よく話し合いができた
- オンラインの不便さよりも、移動時間が無くなった、全国・海外の人ともすぐにつながれるようになった事のメリットの方が多い
- オンラインでもかなりの意思疎通ができる
- 自宅にいながら、会議に参加できた。
- 遠方の方も参加でき、移動の時間が節約できて非常に便利
- 参加者全員が一つの話題に集中できるので、会議の効率が上がったように感じる
- 普段より情報共有が出来るようになった
- 1度つながれば、すぐに慣れた
- 集まらなくてもできることがたくさんあることに気づいた
- 脱線することなく、意見の交換ができる
- リアルでは繋がりにくい地方在住者ともつながることが出来てとても便利だった
- もともと遠隔地の事業所とのテレビ会議を実施していたので、社員全体が慣れている
- 移動しなくていいので楽
- 集まれない時に便利
- 高齢者だから無理と決めつける必要がない
- 移動時間がなく気軽に集まって会話ができるので対面より効率的
- 参加しやすい環境である
- 会議室を予約しないですむのは楽
- 新しい世界が広がった

b-1-2. オンライン会議を実施してみた 感想や気付き – ポジティブな意見 –

- とてもよい
- 制約はあるが、代替手段として、また遠隔参加の機会拡大の手段としては有効
- 利用勝手がよく、セミナー等の会合参加の機会が増大した
- 場所や時間を選ばないので便利
- 打合せが気軽に出来るようになった。
- 遠距離の人とも、移動時間と費用が不要でコミュニケーションがとれるようになった
- 子どもがいる家庭には便利だなと実感した
(家でできるので例えば急に子どもが病気になっても会議に参加できる)
- 移動時間がなくなりオンライン会議は時間を有効活用できる
- 家で仕事ができるようになったのはいい発見だった
- コミュニケーション手段の一つとしてこれまでも定期ミーティングをオンラインで実施している
- 活動手段としては学校への出前授業が主だったが、休校により停止し、オンラインで何ができるかを模索しオンライン事業を実施した。その中でオンラインが多くの垣根を超えるツールであることを実感。新しい授業コンテンツを開発していきたい。
- 活動内容をオンラインで大きく変革することで、従来の活動に、新たな展開の可能性を広げることが出来た。今後は元に戻すということではなく、従来の活動と新しくシフトして広げてきた活動手段とを融合していけるかを見出していきたい。
- 緊急時も含め、便利に意思疎通が図れた
- 拠点が増えたので、離れた場所でも会議が出来て便利
- 会議が短時間で複数回できるようになった
- 打ち合わせが普通に出来た
- やや負担が減った
- クライアントがWebMtgをOKするのは楽
- 距離的に参加しづらい人も参加しやすい
- 移動時間がなくてよい、夜でも集まれるのが良い
- 会議なら問題ない
- コロナの閉塞感から少し出られた感じがした
- 特に違和感はなかったので、必要に応じて活用していくと良いと感じた
- 今回でLineを利用できるようになった人が増えた

b-1-2. オンライン会議を実施してみた 感想や気付き –ネガティブな意見–

- 通信環境が悪いと聞き取りづらい瞬間もある
- 大事は話は会いたい
- セキュリティ問題は心配が付きにくい
- 集中力が必要で疲れる
- 手話は表情、ジェスチャーなど細かい部分を視覚で読み取るので、対面でないと通じない、解釈を間違えるなどがあり、難しい面がある
- 普段から使い慣れているツール以外のものを使い始めるということについては、一人一人の意識の改革や投資もある程度必要になることもあり、全員が一律に、となるにはとてもハードルが高いことを実感している
- レクチャーもリモートではとても難しい
- 画面のなかでの枠に仕切られた平面状のつながりなので、細かいニュアンスや空気感がつかめない
- ちょっとした仕草や「間」による参加者の感情を見逃すことが多い
- 深い部分まで突き詰める議論などは難しいと感じた
- 表情が読めないのでニュアンスが伝わりづらい
- 集合しての会議よりも、各自の発言が少なく、短時間とはなるが、情報量も減少していると感じる
- LINEビデオ通話を使用したためか、ゆるい雰囲気緊張感のない打ち合わせとなった
- 普段より意見対立が先鋭化しやすいかもしれない
- 意見をいう人がいないと成り立たない
- オンラインミーティングに慣れていない人が多いと難しい
- 実施中はさまざまなことに目を配りながら運営するのが難しい
- また参加者の反応を見ることが難しい
- 準備に非常に時間がかかる
- まだなれていない感じがあり、やはり顔を合わせての方がコミュニケーションしやすい
- 在宅ワークが続いているので、頻繁に行っている。新入社員教育もオンライン教育でしたが、流石に顔の表情を瞬時に見渡すことが出来ないのは、やりづらいと感じる
- 4月から加わった新メンバーとの関係構築に課題がある
- オンライン上ではどうしても関係性が深まりにくい
- すでに関係が構築されている学生については、オンラインもオフラインもあまり変わらない
- パソコンの使用方法が分からず参加できない人が出てきた
- PC含め関連機材に古いものがあるので、快適に使えるように機材を揃えて欲しい

b-1-2. オンライン会議を実施してみた 感想や気付き –ネガティブな意見–

- サーバーが集中して音声途切れる等の不具合が発生した
- 反応が見えにくく話しにくい時がある
- 個人のインターネット回線や機材により、音が途切れたりコミュニケーションが円滑にできないことがあるので、「機材格差」を感じた
- オンライン会議の回数は大きく増えたので、オンライン疲れを感じるスタッフは多いようだった
- オンライン回線が不安定な時もあり、オンラインをつなぐために外出することもある
- 相手の表情を読みにくく、どんな風に受け止められているのかはオフラインに比べて分かりにくい
- 将来的にはオンラインがメインになるのでしょうし、そこに向けて取り組んでいく必要はありますが、今、そして直近はオンラインをメインツールにと、急ぎすぎるのは弊害の方が大きいと感じる。特に、障害者は取り残されていくのでは？と危惧している。
- 回線が不安定となることもあり、ストレスを感じた
- オフラインありきの活動なので、直接集まれる場が余計に恋しくなった
- 子育て支援のレスパイトとしての場だと、オンラインではなかなか難しさがあるなど感じる。子どもが楽しめたり、保護者が育児の参考になるような講師を呼ぶようなイベントならありかなと思うが、保護者や子どもたちが交流を図れる場を目的としていたので、オンラインを活用するなら趣旨を変えるか工夫が必要だなと思っている
- 発言者が1名に限られたため、通常の会議に比べ、発言することに対する気遣いが増えた
- 相手が不慣れだとなかなかうまくいかない

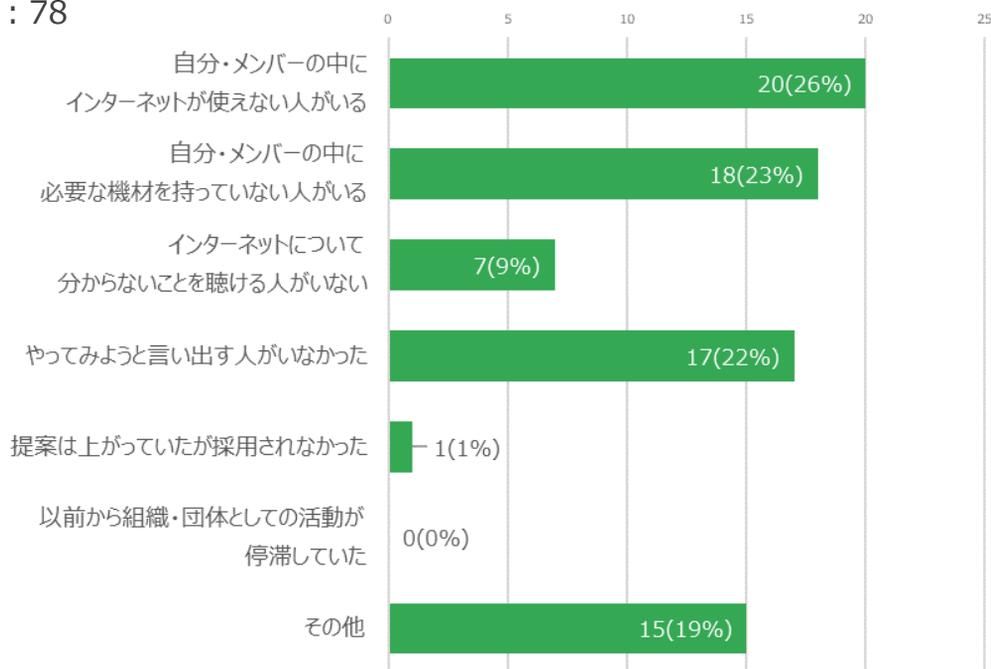
b-1-2. オンライン会議を実施してみた 感想や気付き – その他感想・気付き –

- 対面より準備をしっかりやることが重要
- オンラインだけでなく、緊急事態宣言解除から少人数、屋外でミーティングを同時に持った
- オンライン会議で対応できるものもあれば、オンライン会議ではやはり対応が難しい内容もあることが分かった
- zoomミーティングだと結果的に一対一のコミュニケーションになりやすく、しっかり意見を申し述べる必要がある
- zoomミーティングで実際に会議に参加したが、それだとzoomの人が会議の内容に参加できない。その点は、以前LINEの音声とチャットを使用して実際の会議にオンライン参加した人がいたのだけど、その方が成り立っていた。
- 会議規模の大、中、小によって、使う目的や利用法を分ける必要がある
- 時間帯が通常と違う（寝かしつけが終わってから、帰宅して夕食後など）
- 進行係が必要不可欠
- オンラインを行うまでのリアルな部分で構築されたお互いの関係性の違いで大きく違う
- リアルがメインでオンラインはその補完という考え方が私としては腹落ちする
- 世代間ギャップもあるのかなと思う
- まず、人それぞれ有するオンライン環境が、ハード面ソフト面の両方で十人十色である
- オンライン会議のツールに限定せず、「つながっている」ということを第一とするならば、LINEを使っていない人とはメーリングリストでメールアドレスの連絡をとるなど、複数の手段を使っている。
- メールベースだと返信の有無は本人次第なところがあり、やはり一方通行になる
- うまく足並み揃えられる施策があると良いが、それにはリアルな場で「教える」などしていくしかないのでは？ と思っている
- オンラインで2泊3日のビジネス創出は痺れました笑 さすがに最後はチーム感出ましたが。
- プレゼンは1人に寄せる以外思いつきませんでした
- 基本、zoomを利用した
- 団体で契約したので40分制限なく活用しているが、ここのスケジュールを合わせないと同時刻にMTGなど被ることが多々あり、2つ3つのアカウントが本来は欲しい
- 普段から使用しているので、特に変化を感じなかった
- 音声などがつながらない時があるので複数の手段があるとよい
- ただ通信状況が悪いとストレスを感じる
- オフラインよりも気を使うので疲れる。細かなやりとりが難しい

b-2. オンライン会議を実施しなかった理由 (複数回答)

※b.で「実施していない」を回答した方

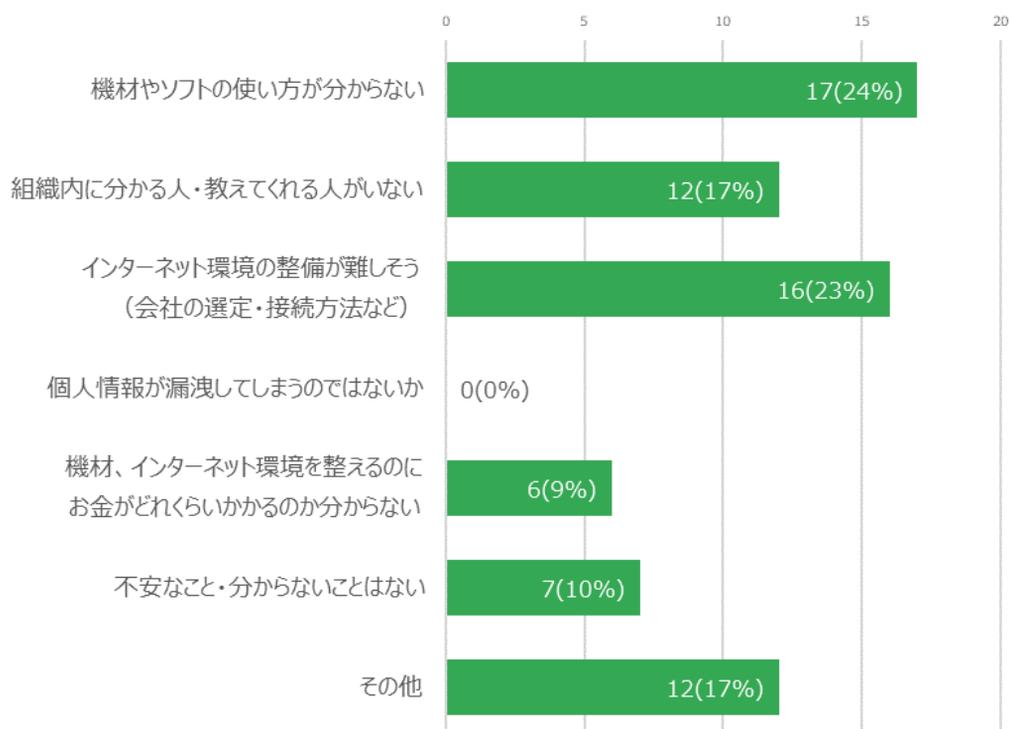
総回答数：78



b-2-1. オンライン会議について不安なこと・分からないこと (複数回答)

※b.で「実施していない」を回答した方

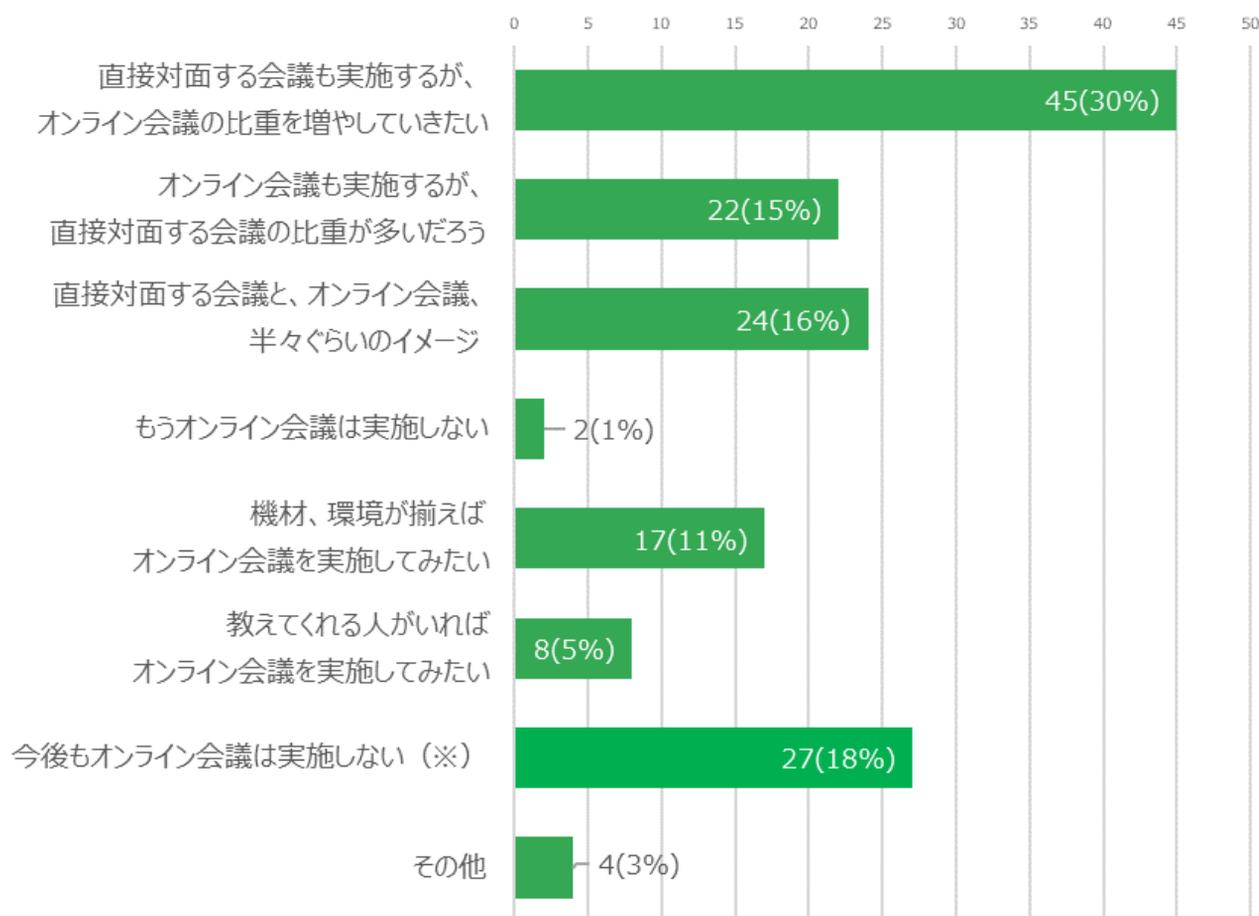
総回答数：70



c. 外出自粛の制限が緩和した後、 オンライン会議の扱い

(複数回答)

総回答数：149



※その他内の自由回答で回答の多かった「今後もオンライン会議は実施しない」を
選択肢として追加しています

d. 活動や外出の自粛により コミュニケーションや会議以外で困ったこと

-1-

ー活動・イベントについてー

- イベントを開催できない
- 参加者を募って、「体感すること」に重きを置いて活動してきたが、同じ空間時間をともに過ごすことが困難となった
- スタッフが行ったこと感じたことをSNS等で発信するにとどまり、コロナ禍における活動の軸が定まらない
- 活動自体が自粛された、活動予定がなくなった
- 講習会やサロンを中止せざるを得なくなった
- 活動の許可が下りない
- 新会員への指導ができない
- 予定していたイベントが延期、中止になったこと
- 会員を増やせない
- 対面しか関わりを望まない子どもの支援
- サロンやイベント開催の先の見通しが立たない
- 活動自体に制限が加わった
- 学校への出前授業提供が主たる活動手段であったので、学校休校により停止状態になった
- 集まることのリスクと、どう折り合うかで今試行錯誤している
- 対話型のイベントが開催出来なくなった
- 実施不可能な活動がある。
- 長期間参加者と会えなくなること（見守りできない）
- 紙媒体での制作は配布や取材活動が難しいということで自粛期間中は発行できなかった代わりに、家での過ごし方などをメールと電話で地域の専門学校に取材し、ウェブサイトの記事掲載を行った
- 進行には時間がかかり、自粛期間が明けてしまった
- 体操教室の開催は自粛期間前からいまだに滞っている
- 子供達へのアプローチをどうしていいかわからなくなってしまった
- 対面で子どもと関わる必要がある事業であったため、その構造・実施の仕方自体を大きく変更しなければならなくなった
- 活動にあたり活動場所や人数を考慮しなければならないところ

d. 活動や外出の自粛により コミュニケーションや会議以外で困ったこと

-2-

ー事業・教育・施設運営についてー

- 団体教育なので集まらなると意味がないものが多いので、90%くらい活動が縮小している
- お客様が来室できない状況が続いた
- 地域活動をしたくてゼミに来ている学生がほとんどのため、それができないことが一番困っている
- 学生への教育機会の提供が滞る
- 今年度の活動ができない場合、先輩から後輩へと継承されてきた様々なノウハウが失われてしまう可能性がある
- 講師派遣事業、集合型研修ができなくなり収入減になった
- (しかしオンライン講師派遣やイベントの機会も増えた)
- 販売活動がすべて中止となっているので売り上げがゼロである
- 利用者さんが会いたがっているので、電話(携帯)で連絡をとっている
- 会社としての売上げに多少の影響を及ぼした
- 取引先の活動停止や自粛による売り上げの減少
- 外部の方の受入をストップしているため、それに伴う業務が増えた(代替レクリエーションの用意、ご家族の代わりに対応するなど)

ーテレワーク、オンラインへの移行についてー

- 取引先などもテレワークのところが多く、相手先の連絡ミスなどが起こっており、困っている
- 例年行っている各種申請書類などが滞りそうになった
- 書類が事務所に届くと取りにいけない、会社に届くファックスは見れない(紙媒体のもののやり取りがむずかしい)
- 居場所を原則閉所とし、支援方法をオンラインなどへ移行したり資金も工数もかかった
- 自宅での作業に伴う経費の増加
- プリントアウトとスキャン
- 対面ではないことで、細かいニュアンスが伝わらず行き違いが生じる
- 業務において、直接顧客と関われないところいやりづらさと伝えづらさを感じた
- メールでのやり取りで、少し不便であった
- 相手のコミュニケーション環境がわからない

d. 活動や外出の自粛により コミュニケーションや会議以外で困ったこと

-3-

ー活動拠点・設備ー

- 研究・教育の専門的な（技術的な）部分では支障が出ている（図書館が使えない、研修ができない、専門ソフトが使えないなど）
- 活動会場が使用不可になった・予約ができない
- 活動室に配置されている機械を使用できなかった
- 活動場所の閉鎖
- 公共施設の利用も制限され、活動場所の確保が出来なかった
- 会場が高齢者施設ということで使用できなくなった

ー情報収集・情報共有ー

- コロナについて各社がどう対応しているのかの情報収集
- オンラインだと情報収集を主目的に時間をもらわなければならない
- まさに「今」どうなっているのか、肌感覚がつかめない部分
- インプットの減少（雑談や雑音、交通広告など）
- 区内の知的障害者利用施設の感染状況や対応など
- お互いの進捗共有がむずかしい
- 部下の進捗状況把握が難しい（進捗状況把握のツールも使っているが完全な形ではない）
- グループ間での報連相の標準化をしなければならないと感じている
- 連絡の返事が遅い

d. 活動や外出の自粛により コミュニケーションや会議以外で困ったこと

-4-

ー健康面ー

- 活動の参加者への安否確認があまりできていない
- ストレス度合いがわかりづらい
- 外出自粛によって、歩行が減り、筋力が落ちた
- イベント自体が激減してしまい、役割が発揮しにくい状況が続いたので、楽しみが減った
- 会員の健康状態が電話だけではわからない
- 電話訪問中に私を思い出せなくなっている方がいて、自粛のリスクを実感した
- 行動が規制されること自体のストレスがある
- 利用者の立場を考えると、行き場がなかったかと思う
- 対象者に会う事、連絡する事ができず、その方の生活状況が把握できず不安だった
- 参加者の体力低下

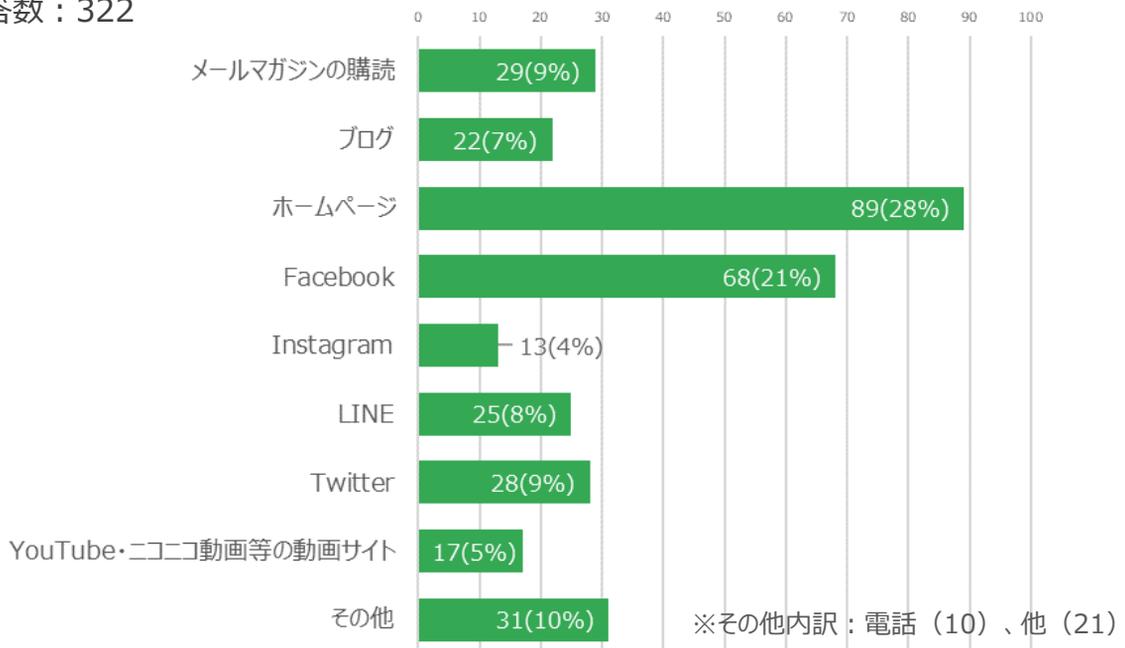
ーその他ー

- 当初、アルコールやマスク、トイレットペーパーなど購入できず困った
- 本業の仕事が不安定な生活になる
- 出張がしづらくなった
- 遠方の人と対面する機会がなくなった
- 新しい方法を模索している
- この状況下でも地域の皆さんに対して学生にできることがないか模索中です
- 話し方・聴き方は対面で行うのが基本
- まだ繋がっていない人、繋がりにくい人との関わるきっかけができない
- 予約制をとっているが、予約が苦手な人のニーズが捉えられない
- リテラシーの違いがコミュニケーション量の違いになるのがよくない
- そもそも連絡先の交換をしていないと、その時点で関係性が切れてしまうので、連絡できなくて困るケースがあった
- 施設のロッカーに機材を入れてあり、ロックアウトの前に取り出すのを忘れた
- 時間管理

a. 活動に必要な情報を“収集”するために 利用したもの

(複数回答)

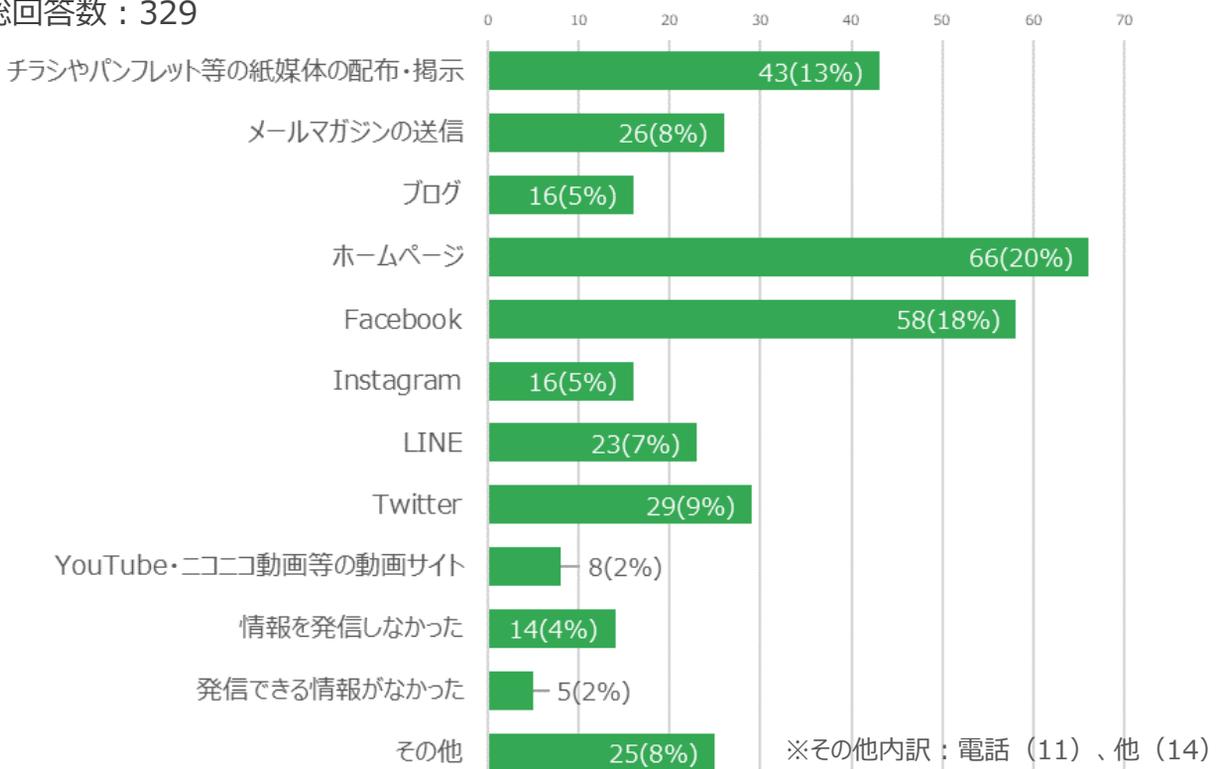
総回答数：322



b. 活動に必要な情報を“発信”するために 利用したもの

(複数回答)

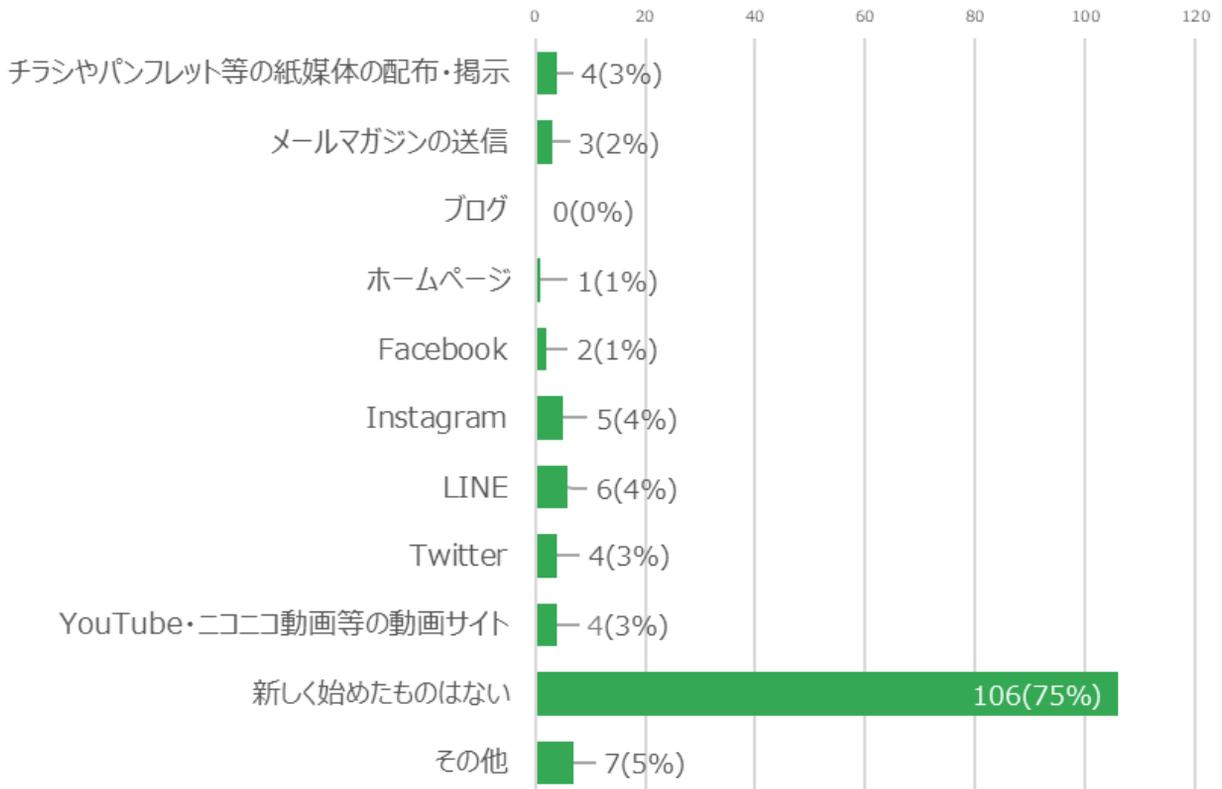
総回答数：329



C. 今回新しく利用をはじめたもの

(複数回答)

総回答数：142



d. 今回新しく利用を始めたものの感想や気付き

ーポジティブな気付き・感想ー

- 動画のアップロードが簡単にできることに驚いた
- 動画の方が伝わりやすいのかなと思う
- 使いやすい
- 高齢者でもチャレンジできる方もいる、きっかけが重要
- 親睦を深める意味で役立った
- いままでと違う方にアプローチできた
- 若者が更新できるようになった
- 自分もやり方を知ることができた
- 教えあいの輪ができた

ーネガティブな気付き・感想ー

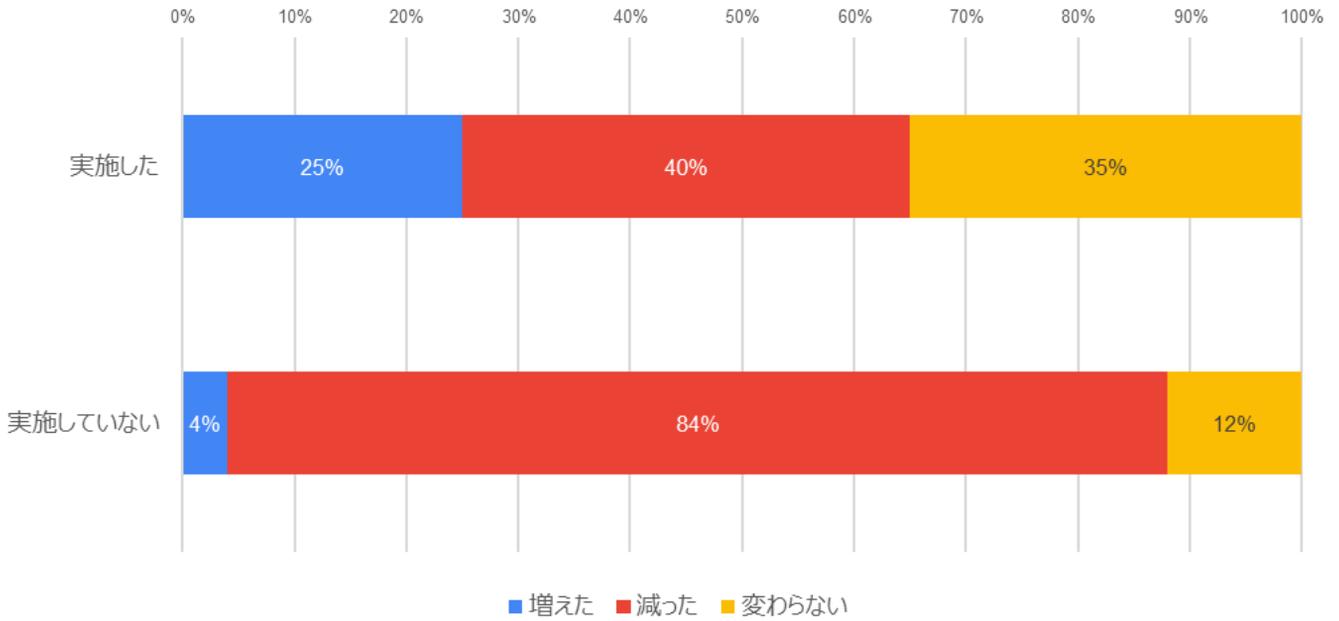
- アドレスがわからない方への連絡が大変だった
- 現在HPを制作中、スタートまでかなり手間がかかる
- 通信環境が人によって異なる
- 幅広い世代に向けての発信は、難しい
- ツールの管理や使い方を学ぶのが大変
- Youtubeはみんなやり始めてるので価値があまりなくなってきた感がある
- Youtubeの配信で伝えられることはたくさんあるが、実際に（特に子どもに）視聴されるのは簡単ではないということ
- 人に見てもらえるような更新や拡散がむずかしく思います
- 特に高齢者は、携帯を持っていない方やガラケーの方も多く、メールやチャットでのリーチが困難
- 結局、電話やご自宅に紙媒体をお届けする等のアナログな手段しかないケースがある

d. 今回新しく利用を始めたものの感想や気付き

ーその他気付き・感想ー

- Instagram、Twitterでコンサートに纏わるアート作品を募集しようと若い人中心に思いついた
- まだまだ構築中なので何とも言えない
- オープンチャットの可能性と、どう楽しく運用していくか
- コンテンツを作成した後の、届け方についても検討が必要
- 対象者にはメールやLINEを使える方もいるので、アナログ以外の方法も検討してもらいたい
- 始めたばかりで運用を含めて評価に至っていない
- スタッフや参加者の皆様といつでも繋がれるように団体のグループラインを作りました
- Line電話でも初めて使う方が多かった

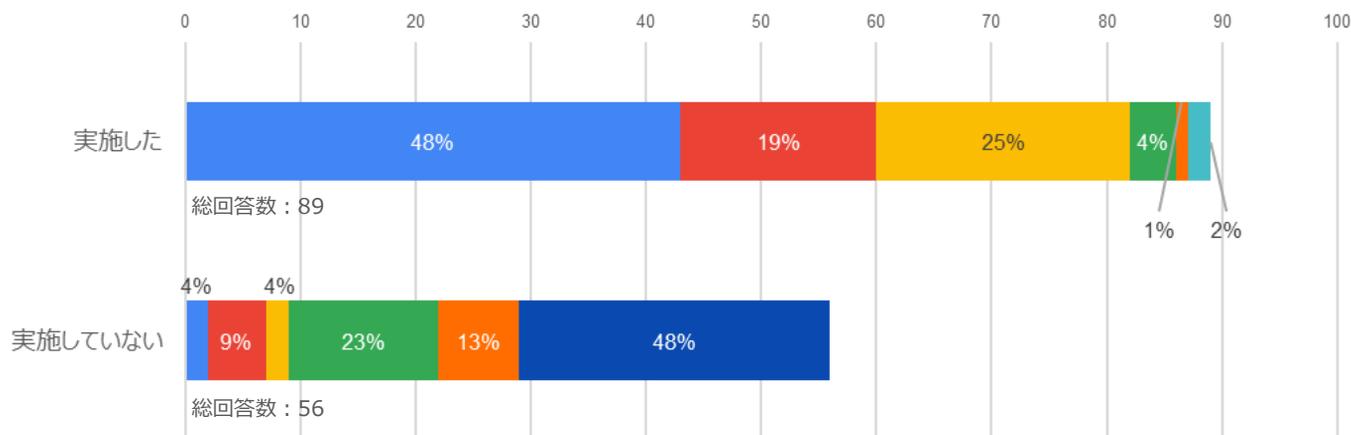
● 組織・団体内でのオンライン会議の実施状況
 × 組織・団体内でのコミュニケーションの頻度



コロナ禍において、オンライン環境は活動団体のコミュニケーションを維持・増加させたのではないかという仮説のもと、「設問b.組織・団体内でのインターネットを利用したオンライン会議の実施状況」と「設問a.組織・団体内コミュニケーションの頻度」をクロス集計した。結果、オンライン会議を「実施した」と回答した方々の6割が、コミュニケーションの維持・増加を図ることができたとの結果が出た。一方、オンライン会議を「実施しなかった」と回答した方々においては、維持・増加を図れたとする回答は2割にも満たなかった。また、「実施しなかった」と回答した方々でコミュニケーションの減少を感じた方々は8割強と、「実施した」と回答された方々と比べて2倍以上の回答があった。

●組織・団体内でのオンライン会議の実施状況

×外出自粛宣言緩和後のオンライン会議の扱い（複数回答）



- 直接対面する会議も実施するが、オンライン会議の比重を増やしていきたい
- オンライン会議も実施するが、直接対面する会議の比重が多いだらう
- 直接対面する会議と、オンライン会議、半々ぐらいのイメージ
- 機材、環境が揃えばオンライン会議を実施してみたい
- 教えてくれる人がいればオンライン会議を実施してみたい
- もうオンライン会議は実施しない
- 今後もオンライン会議は実施しない（※）

オンライン・コミュニケーションは1度でもチャレンジしさえすればポジティブなイメージを持つことができるのではという仮説のもと、【設問b.組織・団体内でのインターネットを利用したオンライン会議の実施状況】と【設問c.外出自粛の制限が緩和した後、オンライン会議の扱い】をクロス集計した。

結果、オンライン会議を実施したことがある方々は、9割以上が今後もオンライン会議を実施するとしている。また、実施しなかった方も、機材や環境が整っていたり、教えてくれる人がいさえすれば、5割以上がオンライン会議実施に対して前向きな姿勢を見せている。

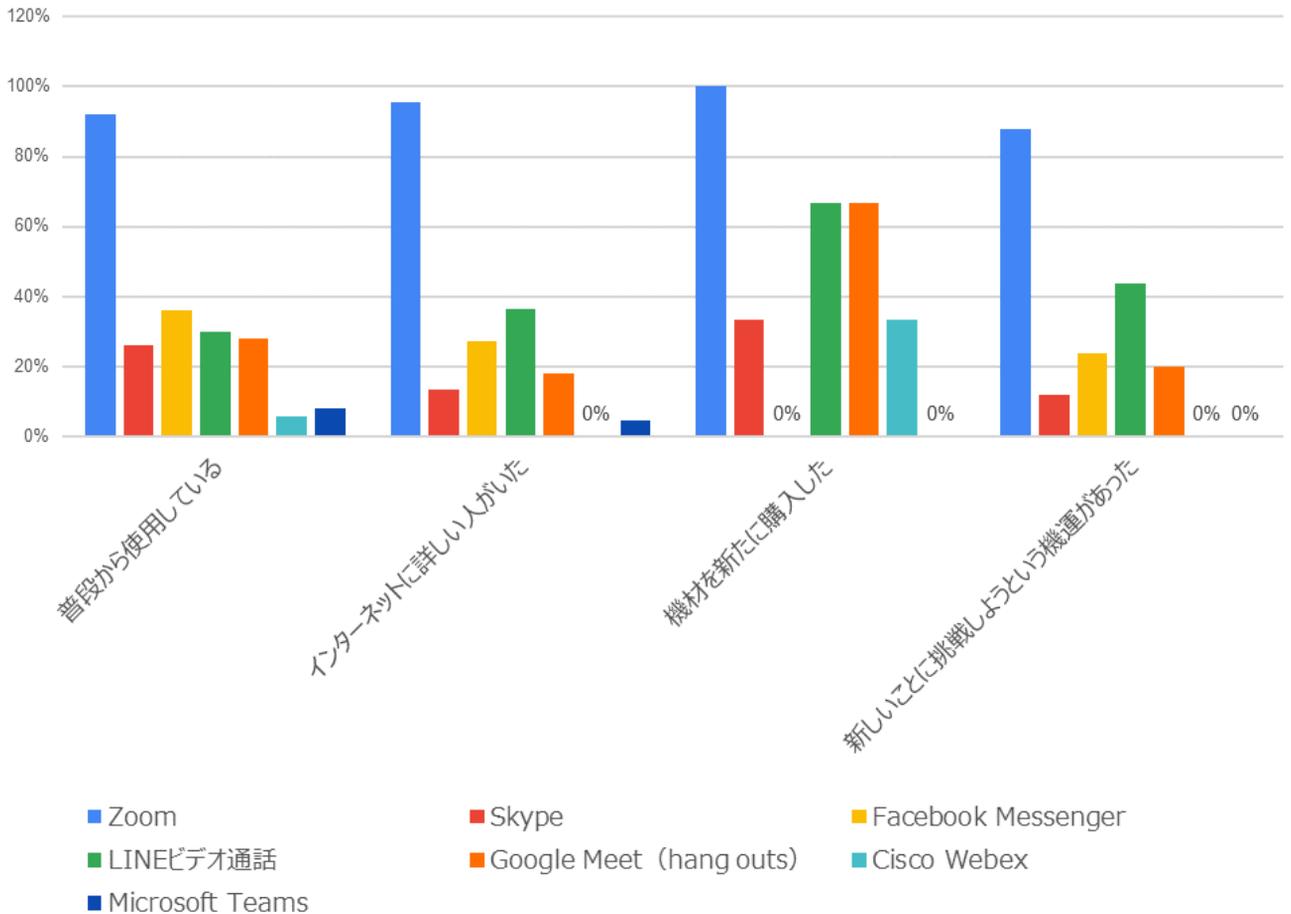
※その他内の自由回答で回答の多かった「今後もオンライン会議は実施しない」を選択肢として追加しています

※P15「c. 外出自粛の制限が緩和した後、オンライン会議の扱い」が複数回答のため

P7「b. 組織・団体内でのインターネットを利用したオンライン会議の実施状況」の回答数よりも多くなっています（オンラインとは何か不明、は実施していないに入れてます）

●オンライン会議を実施できた理由（複数回答）

×オンライン会議で利用したサービス（複数回答）



利用者が全世界で3億人にも到達したと言われる一方でセキュリティ面において疑問視されていたzoomが、どの層においても高いシェアを獲得している。
 また、日常的に使用されているLINEも多く使われている。
 このことから、特に非常時においては、知名度や慣れがツール選択の理由に直結するのではないかと推察される。

※その他内の自由回答で回答の多かった「Cisco Webex」と「Microsoft Teams」を選択肢として追加しています

※複数回答×複数回答のクロス集計のため、回答総数は合計で100%を超えることがあります

はじめに、新型コロナウイルス感染症に罹患された方々と関係者のみなさまに対し、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い回復をお祈り申し上げます。そしてこのような状況下にもかかわらず、本アンケートにご協力いただいたみなさまへ感謝申し上げます。

本アンケートを実施した背景には、この度のコロナ禍のように直接対面でのコミュニケーションが難しい状況において、日頃より関わりのある活動者の皆さまから「どうやって活動を続けたらいいのか」「オンライン会議はどうやるのか」等の悩みの声をいただいたことにあります。

その声を受けて、まずは区内のそれぞれの組織・団体がどのような現状にあるのか、どのような課題を感じているのかを把握することから始めよう、と本アンケートの実施に至りました。

アンケートの設計においては活動者を後述の5つの区分に分け、仮説を立てたうえで実施しました。

(1)どっとフミコム登録団体 (2)地域の居場所やサロン

- 「直接集まる」ことが活動の目的でもあるために、元々オンライン環境があまり整備されていない、もしくは必要としてこなかったのでは
- コロナ禍においての現状やニーズを知る必要がある

(3)Bチャレ関連団体 (4)企業地域連携推進ネットワーク会議参加企業 (5)学識経験者

- 普段からオンライン環境を活用しているためオンライン化におけるメリットや工夫している点などを知ることができるのでは
- 一方でテレワーク推進や事業のオンライン化に伴う悩みや不安があるのではないかと

結果は、概ね仮説通りでした。一方で、「オンライン環境を実施してみてもの気づき」において、(1)(2)の団体の中には「新しいことに挑戦しようという機運があった」という団体も多く、また、今後のオンライン会議の取扱いについても「教えてくれる人がいればやってみたい」など前向きな意見があったことは大きな発見でした。

その他、自由回答の項目では多くの方が詳細に今の状況や気づきを記述してくださりました。数値だけを見るのではなく、その中にある一人ひとりの想いをしっかりと受け止めたうえで、具体的な施策を検討していきます。

今回の結果を踏まえ、フミコムとしては、オンラインはつながりを保つために有効な手段・ツールの一つであることを改めて強く受け止めつつ、ただ漫然と使うのではなく「何のため」につながるのか、つながった先に何を目指すかを明確にする必要性を感じました。

皆様にとっても、本アンケートの結果が、今一度自身の活動や自分自身を振り返り見つめなおすきっかけになれば幸いです。

最後に、本アンケートを実施するにあたりご尽力いただきました、文京区地域福祉活動計画策定委員長の小林良二氏、関係者のみなさまに感謝申し上げます。

令和2年10月1日

このアンケートについてのお問い合わせ先

文京区社会福祉協議会
地域福祉推進係・地域連携ステーション フミコム
オンライン整備アンケート担当

〒113-0033
文京区本郷4-15-14 文京区民センター地下1階
電話：03-3812-3044
E-mail：fumikommu@bunsyakyoo.or.jp